



森町国民健康保険病院基本理念

私たちは、常に「いたわり」と「思いやり」の心をもって病める人が心身ともに癒される病院づくりを目指します

ピリピリ

たいじょうほうしん
帯状疱疹

ズキズキ





チクチク

○帯状疱疹とは
水ぼうそうと同じウイルス『水痘・帯状疱疹ウイルス』が原因で起こる皮膚の病気です。
水ぼうそうを経験した後もウイルスは体の中に静かに潜んでいます。
加齢やストレス、免疫力の低下したときに、潜んでいたウイルスが再び活性化し、帯状疱疹として発症します。

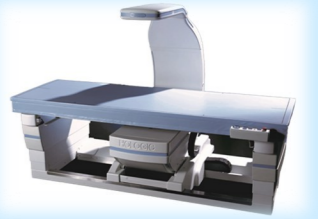
○症状
多くの場合、初期にかゆみや皮膚の違和感、ピリピリとした軽い痛み、しびれを感じ始めます。その1～3日後に帯状に赤い発疹が出現し、その後水ぶくれになり神経に沿って広がっていきます。
特徴としては、左右どちらか一方だけに症状が出ることです。
痛みが徐々に強くなり「焼けるような痛み」「針で刺されたような痛み」などかなり強い痛みを伴うことが多いです。
水ぶくれは10～15日ほどでかさぶたになり、約1か月で正常の皮膚に戻ります。
症状には個人差があります。

○治療～早期受診が大切
帯状疱疹の治療の中心は、抗ウイルス薬です。発疹が出てから72時間以内に飲みはじめることが望ましいといわれています。
痛みが強い場合は、痛みを抑える鎮痛剤を使うこともあります。

○予防が大事
帯状疱疹は、特に50歳代から発症率が高くなり、80歳までに日本人の約3人に1人が帯状疱疹になるといわれています。
免疫力の低下によって発症するため、食事・睡眠をしっかりとる、適度な運動・休憩、ストレスを溜めすぎないなど、心掛けましょう。
また、発症や重症化を防ぐために、帯状疱疹ワクチン接種も選択肢の一つです。

骨粗鬆症（こつそしょうしょう）と骨密度検査



骨粗鬆症（こつそしょうしょう）とは骨量（骨密度）が減る、または骨の質が低下することで骨がもろくなり、骨折しやすくなる病気を言います。

骨粗鬆症の8割近くを女性が占めており、女性ホルモンの低下する更年期以降に多くみられます。閉経を迎える50歳前後から骨量は、急激に減少し、60歳代では5人に1人、70歳代になると3人に1人が骨粗鬆症とされています。

がんや脳卒中、心臓病などの病気に比べ、骨粗鬆症は“放置しても骨折するだけで命の危険はない”と思って検診を受けない人が多いのではないのでしょうか。

「がん」と聞くと「命にかかわる」と考えますが、「骨粗鬆症」と聞いても「骨が折れる」程度だと考える方が多いのが現状です。

しかし骨粗鬆症により骨折した場合は、身体機能低下などが原因で寝たきりになり、「がん」に匹敵するくらい死亡率を上昇させると言われています。

この骨粗鬆症を調べる検査が骨密度検査になります。

骨密度検査では骨を構成するカルシウムなどの量を測り、骨の強度を調べることができます。

骨密度検査の種類として、DEXA（デキサ）法、MD法、超音波などがあります。

当院では測定精度の高いDEXA（デキサ）法の骨密度測定装置を設置しております。

骨粗鬆症について関心がございましたら、この機会に骨密度検査を受けられてはいかがでしょうか？



* エアコンが付きました *

当院では、令和7年6月27日から冷房設備設置工事が始まりました。これまでは、外来診察室や、医療機器がある部屋、薬品・食品を扱う部屋等のみの設置でしたが、今回の工事では病室、外来待合ホール、事務室等の居室空間等に設置します。

患者様やご家族の皆様には暑さによる不快感等を与えていましたが、今夏からは冷房設備を運用し、温度・湿度が管理され院内環境が整えられ、「暑さを忘れて過ごせる快適な空間」となります。快適な空間となりますと、医療従事者の働きやすい環境となることから作業効率が上がリ、より良い医療を提供することができます。

